

# 調査結果の概要

## 第1 人口

### 1 本県の状況

#### (1) 人口

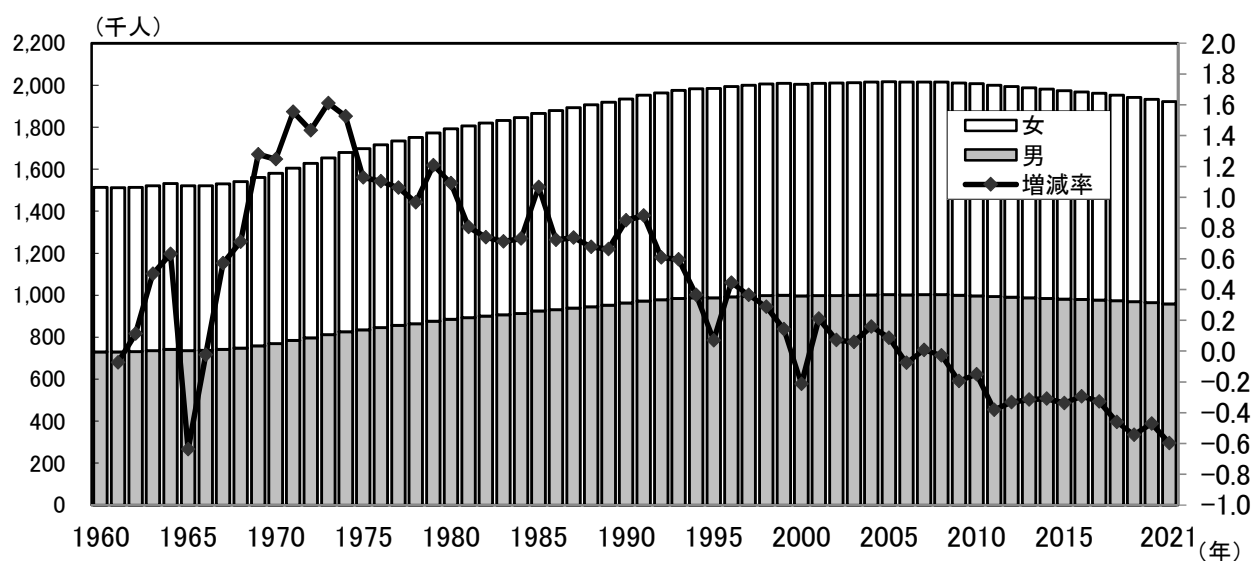
令和3(2021)年10月1日現在の本県の総人口は1,921,575人(男958,733人、女962,842人)で、令和2(2020)年10月1日現在に比べ11,571人の減少(男6,197人減、女5,374人減)、対前年増減率は▲0.60%(男▲0.64%、女▲0.56%)となった。(表1、図1、統計表第1・2・3表)

表1 令和2(2020)年10月～令和3(2021)年9月中の人口増減

(単位：人)

区 分	総 数	男	女	外国人(内数)
令和2年10月1日現在	1,933,146	964,930	968,216	37,408
出 生	11,796	6,113	5,683	299
死 亡	22,555	11,799	10,756	59
自然増減(①)	▲10,759	▲5,686	▲5,073	240
転 入	65,570	36,570	29,000	10,706
転 出	66,382	37,081	29,301	11,298
社会増減(②)	▲812	▲511	▲301	▲592
人口増減(①+②)	▲11,571	▲6,197	▲5,374	▲352
令和3年10月1日現在	1,921,575	958,733	962,842	37,056

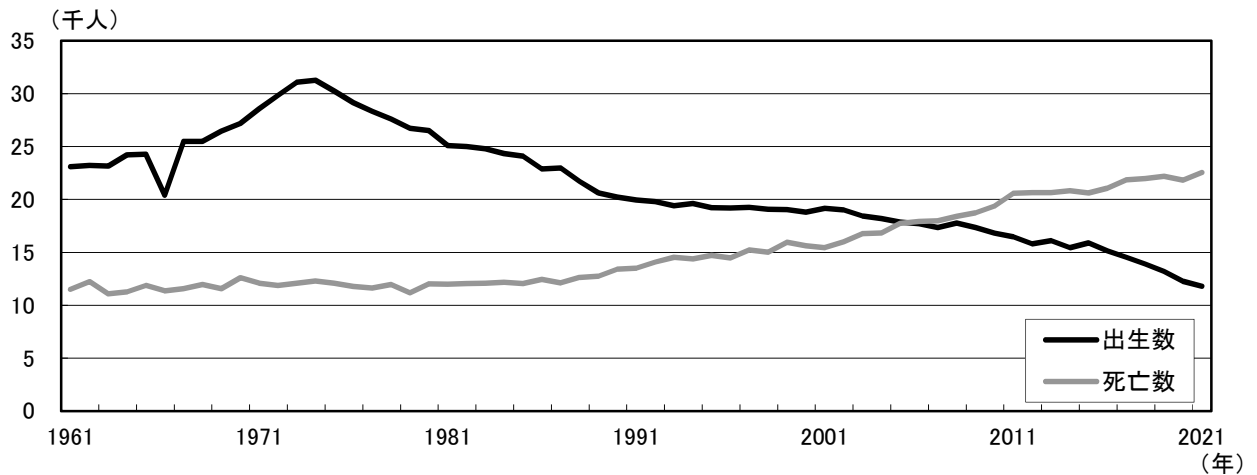
図1 総人口及び対前年増減率の推移(昭和35(1960)年～令和3(2021)年)



#### (2) 自然動態(令和2(2020)年10月1日～令和3(2021)年9月30日)

自然動態は、10,759人の減少(対前年増減率▲0.56%)で、減少幅は前年(9,579人)に比べ1,180人増加した。内訳をみると、出生数は11,796人(対前年465人減)、死亡数は22,555人(対前年715人増)で、調査開始以来、出生数は過去最少、死亡数は過去最多となった。(図2、統計表第1・3表)

図2 自然動態の推移



(3) 社会動態 (令和2(2020)年10月1日～令和3(2021)年9月30日)

社会動態は812人の減少(対前年増減率▲0.04%)で、前年(643人減少)に引き続き4年連続の減少となった。内訳をみると、転入数が65,570人(対前年2,679人減)、転出数が66,382人(対前年2,510人減)で、4年連続の転出超過となった。調査開始以来、転入数は過去2番目に少なく、転出数は過去最少となった。(図3、統計表第1・3表)

このうち、県外の転入・転出については、県外からの転入は40,443人(転入全体の61.7%)、県外への転出は39,764人(転出全体の59.9%)で、679人の転入超過(国内837人の転出超過、国外1,516人の転入超過)となっている。都道府県別では、転出者数、転入者数とも関東地方の都県が上位を占めており、転出超過となっている。(表2・3、統計表第7表)

次に、県外転入・転出者を年齢(5歳階級)別にみると、転入で最も多いのは20～24歳(8,073人)で、次いで25～29歳(7,688人)だった。転出では20～24歳(8,533人)、25～29歳(7,957人)の順であった。転入超過数についてみると、35～39歳が436人で最も多く、転出超過数では20～24歳が460人で最も多かった。(図4、統計表第8表)

図3 社会動態の推移

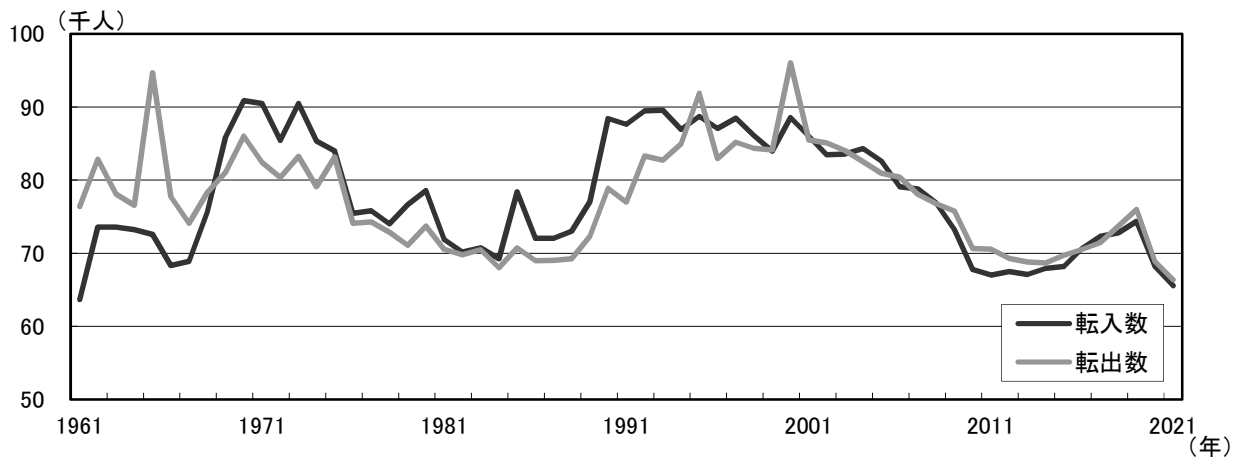


表2 県外からの転入者数・県外への転出者数(地域別)

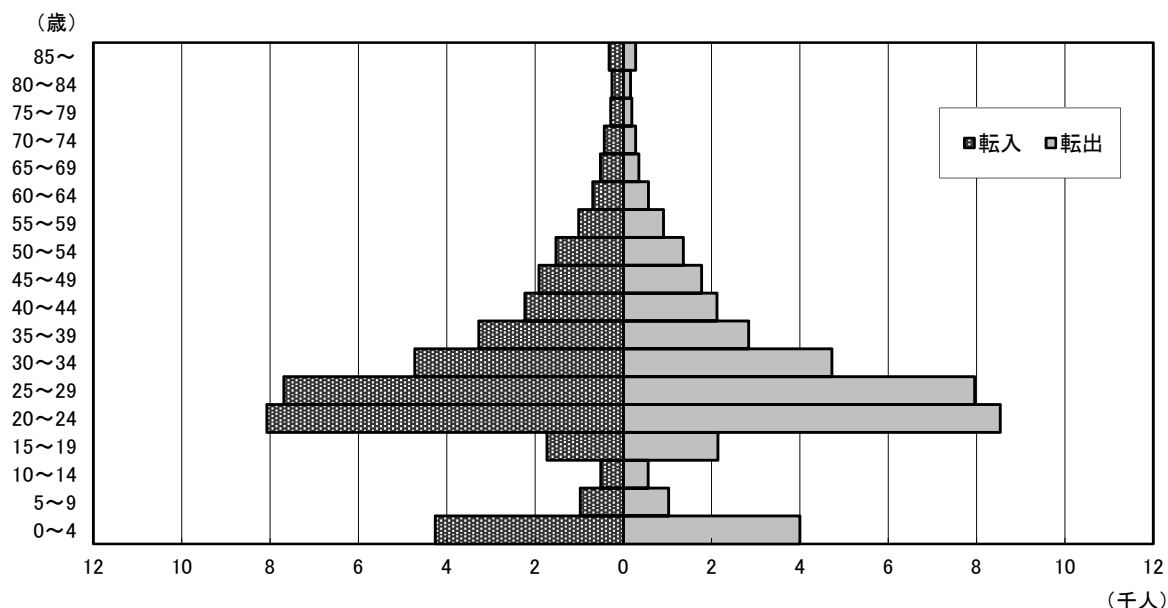
(単位:人)

地域	総数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	国内	国外
転入者	40,443	794	3,657	23,768	3,659	2,010	888	1,301	36,077	4,366
転出者	39,764	666	2,947	25,416	3,569	2,134	758	1,424	36,914	2,850
増減	679	128	710	▲1,648	90	▲124	130	▲123	▲837	1,516

表3 県外からの転入者数・県外への転出者数（上位5都道府県）（単位：人）

	転入者数		転出者数		転出超過数	
	都道府県	人数（人）	都道府県	人数（人）	都道府県	人数（人）
1	東京都	6,035	東京都	6,587	埼玉県	▲ 856
2	埼玉県	5,253	埼玉県	6,109	東京都	▲ 552
3	茨城県	4,019	茨城県	3,826	神奈川県	▲ 296
4	神奈川県	3,000	神奈川県	3,296	群馬県	▲ 249
5	群馬県	2,968	群馬県	3,217	長野県、京都府	▲ 74

図4 年齢(5歳階級)別県外転入・転出者数



(4) 年齢別人口

令和3(2021)年10月1日現在の県人口を年齢3区分別にみると、15歳未満人口が222,128人(対前年5,425人減)、15~64歳人口が1,103,447人(対前年12,164人減)、65歳以上人口が560,400人(対前年6,019人増)であった(年齢不詳35,600人を除く)。

これを構成比で見ると、15歳未満人口11.8%(対前年0.2ポイント減)、15~64歳人口58.5%(対前年0.3ポイント減)、65歳以上人口29.7%(対前年0.5ポイント増)となり、昭和61(1986)年の年齢別調査開始以来、15歳未満人口の割合は減少を、65歳以上人口の割合は増加を続けている。また、75歳以上人口の割合は14.3%(対前年0.2ポイント増)であった。(図5、統計表第9・12表)

なお、全国の年齢3区分別人口構成比は、令和3(2021)年10月1日現在で15歳未満人口11.8%、15~64歳人口59.1%、65歳以上人口29.1%、75歳以上人口15.0%であった。(総務省統計局「人口推計」令和3(2021)年10月1日現在(概算値))

人口の対前年増減率を年齢5歳階級別にみると、増減率が最も高かったのは70~74歳の6.5%で、最も低かったのは0~4歳の▲4.0%であった。(表4、統計表第10表)

図5 年齢3区分別人口構成比の推移

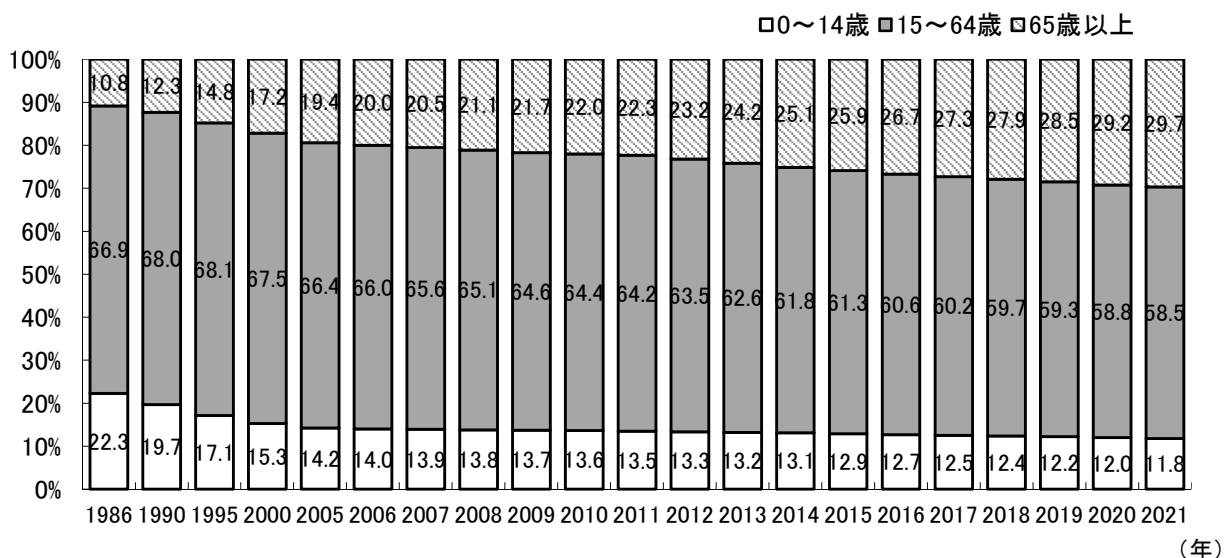


表4 年齢5歳階級別人口の対前年増減数・増減率 (単位: 人、%)

年齢	10月1日現在人口		総人口※に占める割合		対前年増減数	対前年増減率
	令和3年(2021)	令和2年(2020)	令和3年(2021)	令和2年(2020)		
0～4歳	63,395	66,024	3.4	3.5	▲ 2,629	▲ 4.0
5～9	75,763	77,301	4.0	4.1	▲ 1,538	▲ 2.0
10～14	82,970	84,228	4.4	4.4	▲ 1,258	▲ 1.5
15～19	87,747	87,604	4.7	4.6	143	0.2
20～24	80,492	81,438	4.3	4.3	▲ 946	▲ 1.2
25～29	85,667	87,377	4.5	4.6	▲ 1,710	▲ 2.0
30～34	95,729	98,988	5.1	5.2	▲ 3,259	▲ 3.3
35～39	111,466	113,591	5.9	6.0	▲ 2,125	▲ 1.9
40～44	125,151	129,722	6.6	6.8	▲ 4,571	▲ 3.5
45～49	146,634	147,820	7.8	7.8	▲ 1,186	▲ 0.8
50～54	134,869	127,053	7.2	6.7	7,816	6.2
55～59	115,656	118,693	6.1	6.3	▲ 3,037	▲ 2.6
60～64	120,036	123,325	6.4	6.5	▲ 3,289	▲ 2.7
65～69	135,640	141,154	7.2	7.4	▲ 5,514	▲ 3.9
70～74	155,118	145,589	8.2	7.7	9,529	6.5
75～79	100,024	103,165	5.3	5.4	▲ 3,141	▲ 3.0
80～84	78,374	75,846	4.2	4.0	2,528	3.3
85歳以上	91,244	88,627	4.8	4.7	2,617	3.0

※年齢不詳人口を除く

(5) 平均年齢

令和3(2021)年10月1日現在の県人口の平均年齢は48.1歳で、令和2(2020)年10月1日現在(47.8歳)に比べ0.3歳上昇し、年齢別調査開始以来最も高くなった。(統計表第9表-2・12表)

(6) 人口性比

令和3(2021)年10月1日現在の県人口の人口性比(女性100人に対する男性の数の割合)は99.6で、令和2(2020)年10月1日現在(99.7)に比べ0.1下落した。(統計表第1表・9表-2)

## 2 市町の状況

### (1) 人口

市町別の対前年人口増減についてみると、1市で増加し、13市11町で減少した。増減率が最も高いのは小山市(0.04%)、最も低いのは茂木町(▲2.52%)であった。

対前年人口増減について動態別にみると、自然動態では4年連続ですべての市町が減少した。社会動態では5市3町で増加、9市8町で減少した。(図6、図7、表5、統計表第3表)

図6 市町別対前年人口増減率分布図

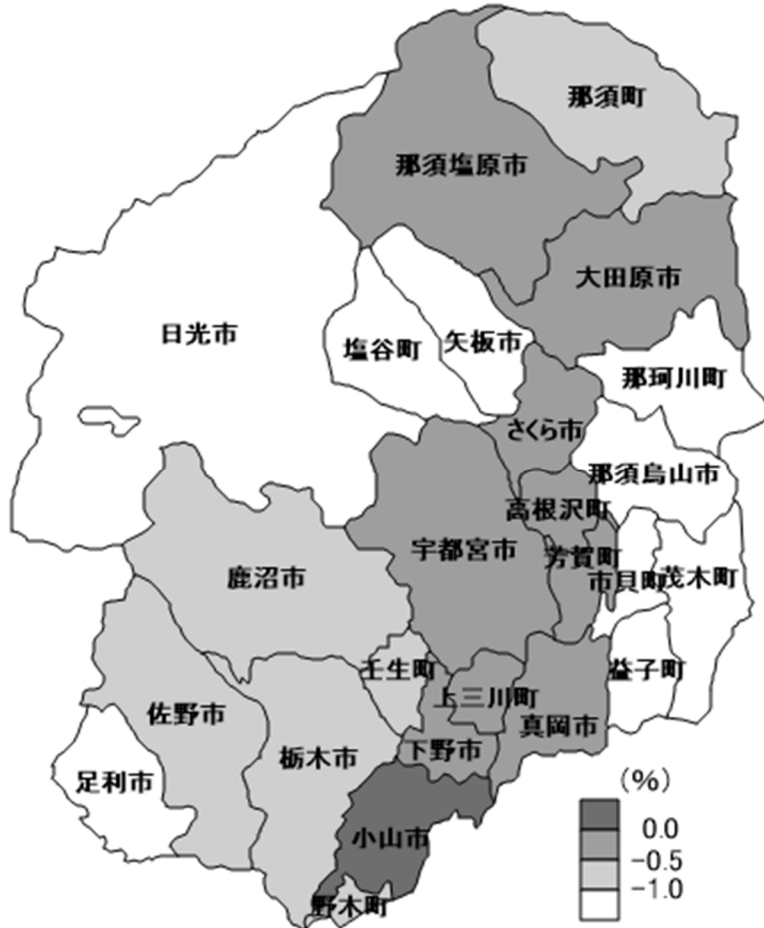
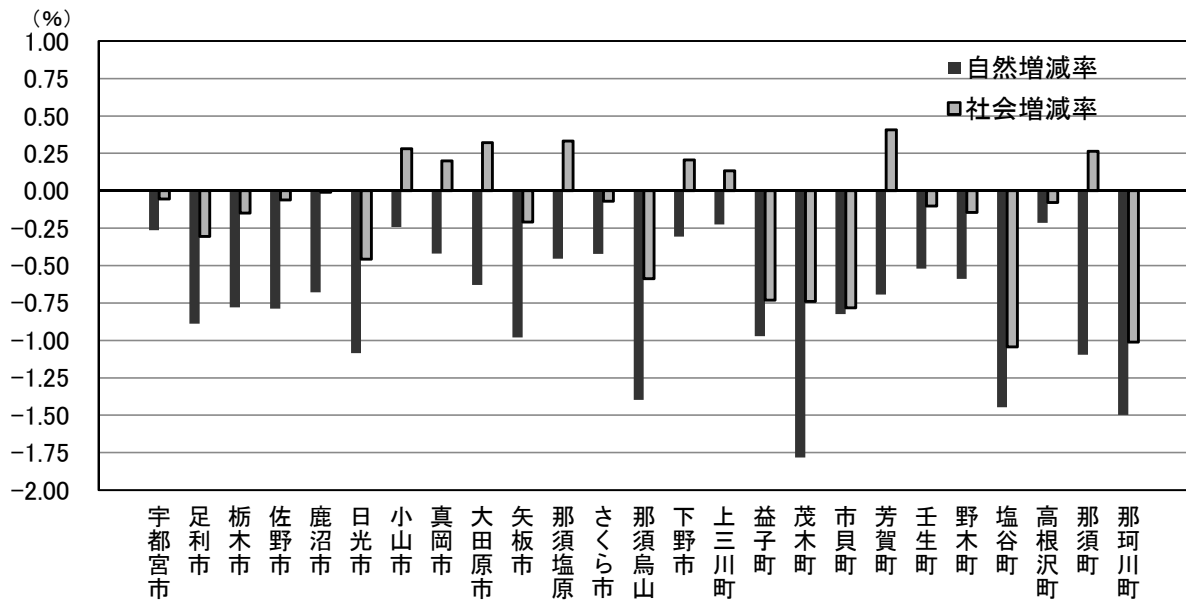


表5 対前年人口増減率順位

順位	上位5市町	
	市町名	増減率(%)
1	小山市	0.04
2	上三川町	▲0.09
3	下野市	▲0.10
4	那須塩原市	▲0.12
5	真岡市	▲0.22
順位	下位5市町	
	市町名	増減率(%)
1	茂木町	▲2.52
2	那珂川町	▲2.51
3	塩谷町	▲2.49
4	那須烏山市	▲1.99
5	益子町	▲1.70

(注)順位は、数値の大きい順に付した。

図7 市町別動態別対前年人口増減率



(2) 年齢別人口

市町別に年齢3区分別人口の割合をみると、15歳未満人口の割合が最も高いのは、さくら市(13.3%)、最も低いのは茂木町(7.9%)であった。

15～64歳人口の割合が最も高いのは上三川町(62.5%)、最も低いのは茂木町(48.3%)であった。また、全25市町で前年に比べ割合が低下した。

65歳以上人口の割合が最も高いのは茂木町(43.8%)、最も低いのは上三川町(24.5%)であった。また、全25市町で前年に比べ割合が上昇した。(図8、図9、表6、統計表第9表-2)

図8 市町別65歳以上人口割合分布図

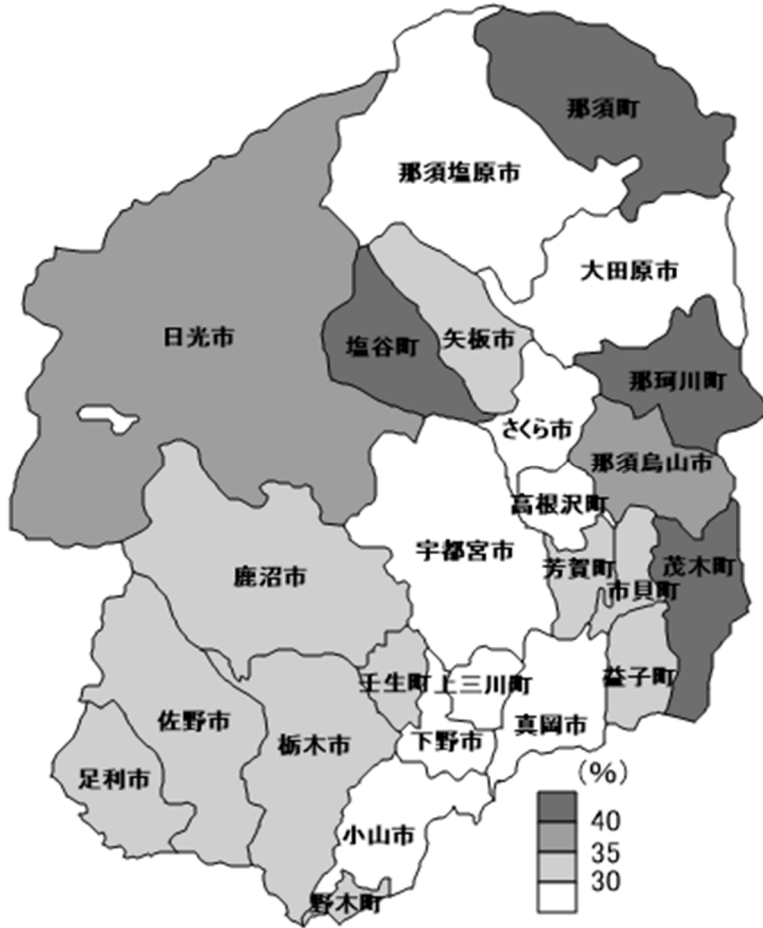


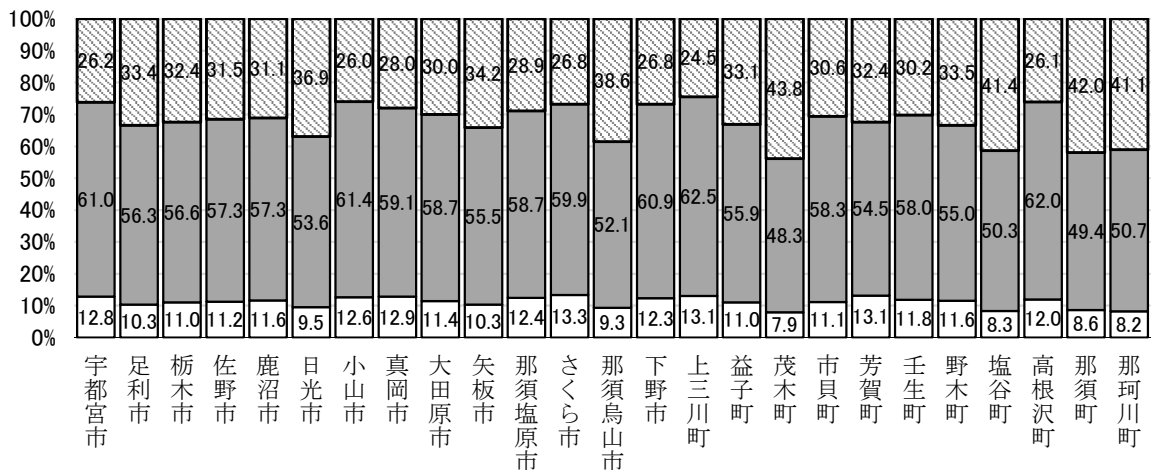
表6 65歳以上人口割合順位

順位	上位5市町	
	市町名	割合(%)
1	茂木町	43.8
2	那須町	42.0
3	塩谷町	41.4
4	那珂川町	41.1
5	那須烏山市	38.6
順位	下位5市町	
	市町名	割合(%)
1	上三川町	24.5
2	小山市	26.0
3	高根沢町	26.1
4	宇都宮市	26.2
5	下野市	26.8

(注)順位は、数値の大きい順に付した。

図9 市町別年齢3区分別人口構成比

□0～14歳 ■15～64歳 ▨65歳以上



(3) 県内移動（市町間の社会動態）

県内移動について市町別に転出入差をみると、7市2町で転入超過、7市9町で転出超過となった。（表7、統計表第3表）

県内移動者23,890人の移動後の住所地についてみると、宇都宮市が5,607人（移動者の23.5%）と最も多く、次いで小山市が2,132人（8.9%）、栃木市が1,821人（7.6%）であった。（統計表第6表）

表7 県内移動の転出入差の大きい市町

順位	転入超過		転出超過	
1	宇都宮市	410人	日光市	244人
2	真岡市	180人	那須町	173人
3	下野市	173人	那珂川町	154人
4	那須塩原市	140人	高根沢町	97人
5	小山市	111人	益子町	83人

第2 世帯

(1) 世帯数

令和3（2021）年10月1日現在の本県の世帯数は803,118世帯で、令和2（2020）年10月1日現在（796,923世帯）と比べると6,195世帯の増加（対前年増減率0.78%）となった。

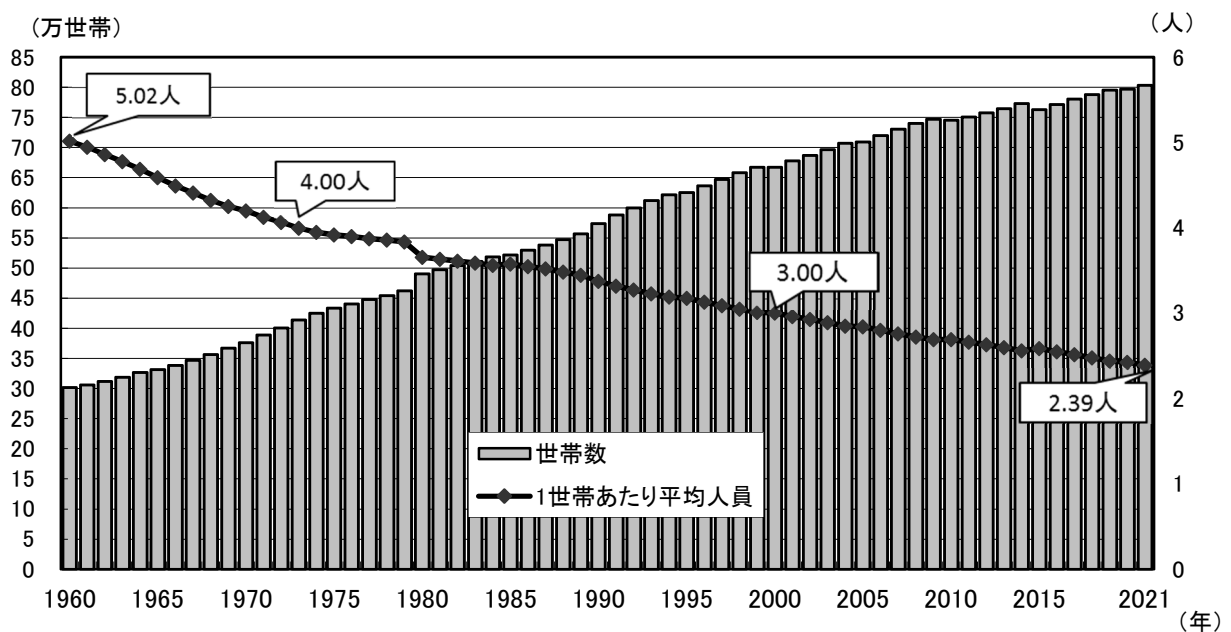
市町別に対前年増減率をみると、最も高いのは上三川町（2.09%）で、最も低いのは茂木町（▲0.40%）であった。（図10、統計表第1・3表）

(2) 世帯人員

令和3（2021）年10月1日現在の本県における1世帯あたりの平均人員は2.39人で、令和2（2020）年10月1日現在（2.43人）と比べると0.04人の減少となった。

1世帯あたり人員を市町別にみると、最も多いのは芳賀町（2.80人）で、最も少ないのは宇都宮市（2.22人）であった。（図10、統計表第1・3表）

図10 世帯数と1世帯あたり平均人員の推移



(参考) 本県の人口ピラミッド (令和3 (2021) 年10月1日現在)

